

## 「本のまち八戸」の推進

### 青森県 八戸市立図書館

#### 基本データ

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 所在地    | 青森県八戸市大字糠塚<br>字下道 2-1 |
| 職員数    | 13 人                  |
| うち司書数  | 4 人                   |
| 蔵書数    | 527,456 冊             |
| 利用登録者数 | 85,294 人              |
| 年間貸出冊数 | 795,323 冊             |
|        | (児童用図書貸出数 247,174 冊)  |

#### テーマ・活動のねらい等

【テーマ】地域の課題解決、まちづくり

【活動のねらい】

- 「本のまち八戸」関連事業の所管課が連携し、本を手にすることができる機会や場を整備することにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しみ、本で「まち」を盛り上げる。

#### 取組・活動の概要

- 八戸市では、平成 26 年度より市民が様々な本に親しむことで、豊かな想像力や思考力を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちとなることを目指す施策「本のまち八戸」を推進するため、各課が連携し事業を実施している。

【「本のまち八戸」の主な事業】

- 「八戸ブックスタート事業」【担当：図書館】(2014 年度～)
- 「マイブック推進事業」【担当：教育指導課】(2014 年度から継続) 市内の小学生に、市内の書店で図書を購入することができる、クーポン(2,000 円分)を配付。
- 「読み聞かせキッズブック事業」【担当：子育て支援課】市内の 3 歳児に、市内の書店で図書を購入することができるクーポン(2,000 円分)を配付。(2016 年度～2018 年度)
- 「八戸ブックセンター」の運営【担当：八戸ブックセンター】書籍の販売。
- 「学校図書館支援事業」【担当：教育指導課】学校司書(4 名)の配置(2016 年度～)。
- 「ライブラリ事業」【担当：八戸ポータルミュージアム】八戸ポータルミュージアムの 2～4 階で、アートや文化、ものづくり、八戸市にゆかりのある人物の書籍等を展示(2010 年度～)。

【主な連携】

- 「ブックスタート事業」では、案内チラシの配付等で健康づくり推進課と連携し実施している。
- 「マイブック推進事業」では、担当課と図書館、ブックセンターが連携し「おすすめブックリスト」を作成。また、ブックセンター職員並びに図書館職員が「おすすめブックリスト」に関連したブックトークを市内小学校(今年度は延べ 19 校)で開催している。さらに、図書館では「おすすめブックリスト」に掲載されている図書を購入し、展示・貸出を行っている。



ブックトークの様子

- 八戸ブックセンターが開催した「本のまち八戸ブックフェス」では、移動図書館車の展示や、子育て支援課と共催で「読みきかせ・絵本展」を開催した。



ブックフェスでの移動図書館車の展示



ブックフェスでの読み聞かせの様子

- ブックセンターと図書館、市内書店でテーマを統一して、展示を実施している。

※テーマ例)「馬場のぼる」「三浦哲郎」「高森美由紀」等

- 学校図書館支援事業では、学校司書、ブックセンター、図書館の3者による研修会、情報交換会を実施している。

### 取組・活動の工夫や特徴

- 八戸市では「本のまち八戸」関連事業を、図書館、子育て支援課、教育指導課、八戸ポータルミュージアム、八戸ブックセンターの5部署で所管しており、それぞれの得意な分野を活かし、連携して事業を実施している。
- 年2回、「本のまち八戸」関係事業所管課が集まり連絡会議を開催し、情報共有をしながら連携を図っている。今年度は「マイブック推進事業」で実施したブックトークで使用する図書を、図書館で購入すること等が決定した。
- 年に1度、本のまち八戸関連事業所管課、市内

各書店、出版社、飲食店等が参加し、「本のまち八戸ブックフェス」(今年度は9月21日実施)を実施している。図書館では移動図書館車の展示、また、子育て支援課と連携し「読みきかせ・絵本展」(図書館は展示する50冊の提供及び、読み聞かせボランティアの確保を担当)を開催した。

### 取組・活動の成果や今後の展望

- 図書館の市民一人当たりの貸出冊数が、市の総合計画における「本のまち八戸」についての指標となった。
- ブックスタート開始から、幼児の貸出冊数が3年連続で増加した。
- ブックトークに児童書担当者が参加することにより、児童がベストセラーだけでなく、幅広い分野の本に興味関心を持っていることが再確認できた。
- ブッククーポンの配付により、小学生の図書館利用が喚起された。図書館では、クーポンの使用期間中に「おすすめブックリスト」掲載本の展示を行っており、購入する本を決める参考にする利用者や、購入した本の関連本を探す利用者が増えた。
- 「マイブック推進事業」や「学校図書館支援事業」での連携により、小学校については学校や司書教諭、学校司書と情報交換する機会が増えた。今後は、中学生・高校生の読書活動について把握するため、ブックセンターが中学校・高等学校で実施しているワークショップ・共同事業等に参加し、図書館利用が低迷している当該年齢層の読書需要を把握し、図書館の利用増加を図る。